



ティー・ミーティング ～よろこぶ市長へ～



横浜市では、毎月1組の市民グループを林文子市長とのティー・ミーティングに招待しています。このティー・ミーティングに8月23日青葉区民会議委員8名が招待されました。文字通りお茶を飲みながら、横浜市政について市長と意見交換を行うことができました。

- ① はじめに区民会議の活動を紹介したところ、事前にお届けした多くの資料にもしっかり目を通していただくことが伝わる細やかな対応があり、市長の市民の動きを積極的にキャッチする姿勢を強く感じました。また市長からは「皆さんが議論しているテーマは、そのまま行政でも検討している重要な課題で、まるで横浜市の経営会議をしているような感じでした。検討内容は本質的で深いものであり、提案書もよくできていると思います。」との感想が述べられました。
- ② 引き続き一人ひとりが取り上げている課題や活動について報告しました。昨年の東日本大震災で得た教訓を基に区民会議が企画している減災連続講座に対しては、「区民会議として、提案するだけでなく実行しようとする姿勢は重要です。防災・減災については自治会との関連性がとても重要になります。」とのご意見を頂きました。さらに、生活保護者に一定のボランティア参加を義務づける提案についても「生活保護者の就労支援に力点を置いている横浜市としても大変参考になる提案です。」と評価いただけました。
- ③ 青葉区の緑豊かな環境を区民に伝えたいとの思いで写真にまとめた『美しい景観（ビューポイント）一覧』では青葉区に住んでいた時の話が広がりました。「黒須田川から鶴見川周辺をよく散歩しました。バードウォッチングが好きで、あの川には30種類以上の野鳥がいますね。」といった話があり、市長の青葉区への愛着をうかがい知ることができました。「地域のことをよく理解し、実際に現地を歩いた上で出される提案は人への伝わり方も違ってきますね。」と、この取り組みへ賛同していただけました。
- ④ まちの緑を測る指標のひとつ「緑視率」を使って駅前を比較する提案を、市長が利用されていたあざみ野駅を例に説明をしました。あざみ野駅は緑視率19%と低いのですが、駅前に大きなシンボルツリーが一本あるだけで景観が見違えると提案したところ、青葉区の緑環境についてもよくご存知で「駅前の緑は大切ですね。」と市長からもひとことがありました。
- ⑤ また、子育て支援に力を注いでいる市長からは「子育てについてのどのような要望を区民会議の皆さんは聞いていますか？」との問いかけがありました。これに対しては、子育て支援拠点「ラフル」が昨年できたものの、いつでも親子でふれあいができる場がほしいという声も多いことや、専業主婦からは「一時預かり」「一時保育」の利用を望んでいることなどをアピールしました。さらに、身近なところで気軽に利用でき多世代が集える場はますます必要になるだろうと子育て層アンケートの結果などもお伝えしました。
- ⑥ 最後に市長から「市のいろいろな施策が市民に十分伝わらないことがある。今後も広聴・広報について、皆さんの協力をぜひお願いしたい。」とのお話を頂き、青葉区民会議も「広聴と広報」は今後も力を入れて活動したいとの思いを強くしました。



編集後記



青葉区役所の玄関前は真夏の日差しを避けるようにゴーヤやアサガオのグリーンカーテンが広がります。節電のために庁舎内は28度の室温調整。5時を過ぎるとそのエアコンも止まります。その中でウチワ片手に編集会議。普通のおじさん、おばさんが青葉区のまちをよくしたいーその思いで、自分たちの目で見、足で歩き、みなさんの意見を聴いています。その活動をなんとか紙面で伝えたいとの思いでニュースを編集しました。この活動をもっと若い人たちや現役世代の人たちといっしょに進めることができたらと思います。参加をお待ちします。お問い合わせは下記広報相談係内事務局へ